令和6年度

小学校用教科書

内容解説資料

編集の趣意と特色

ひろがる言葉

小学国語

教育出版

子どもは言葉のなかで成長していきます。
子どもが「言葉」と出会い、
その「言葉」がさらに新しい「言葉」との出会いを生み出していく。
学びは子どもの世界を広げ、生きる力を育みます。

なかに生きている

私たちは、言葉の

目次

・国語の学びに、今必要なこと……2

1「学び」が見える

・何を学ぶのか、どう学んだらよいのかがわかる、機能的な紙面……4
・学び方が見える、子どもたちが見通しをもてる「学習のてびき」……6

2「学び」がわかる

・子どもたちの身のまわりにある課題に、仲間とともに向き合う教材……8
・言葉への関心を高めながら、生きてはたらく言葉の力を育む教材……10

3「学び」が生きる

・「学んだことが生かせた！」と言葉の力の広がり、深まりを実感できる……12
・言葉の学びを実感し、生きた言葉の力で世界を広げる……14
・楽しく、安心して学べる入門期教材……16
・『ひろがる言葉』を使った国語授業づくり……18
・授業を完全サポート
——デジタル教科書・教材……20
・子どもの学びを広げる
——「まなびリンク」……22
・先生がたの日々の授業を支える
——教師用指導書……23
・「私の大切な教科書」となることを願って
——表紙・分冊……24
・「学びたい」をしっかり支える
——だれにとってもやさしい教科書を目ざして……26
・著作者の言葉……28
・著作者の紹介……29

国語の学びに、今必要なこと

「学びたい！」を全ての子どもたちに。
三つの願いがこの教科書にこめられています。

学ぶことを楽しめるように

子どもたちが楽しみながら学ぶためには、学習の目標を知り、見通しを立てたり振り返ったりして、学びの道筋を見つけることが必要です。こうした学習を積み重ねることで、子どもたちの学びが深まり、学ぶ楽しさが生まれます。

1 「学び」が見える

2 「学び」がわかる

学び合いを深められるように

子どもたちが主体的に学ぶためには、そこに学ぶ楽しさがなければなりません。仲間と対話を重ね、協働して学びを深めていく。学ぶ楽しさを実感しながら、何のために、何を学んでいるのかを自覚することで、学習が深まります。

3 「学び」が生きる

学びで世界を広げられるように

子どもたちは知らなかったことを新たに知ることが大好きです。国語科で学んだことを他教科の学びや実生活に生かしていくことで、子どもたちの世界が広がります。学んだことが生かされていくなかで、子どもたち一人一人の、未来を切りひらく言葉の力が育まれていきます。

“『ひろがる言葉 小学国語』は、子どもが わくわくしながら言葉を学び、使うことの楽しさを体験できる、確かな言葉の使い手となる学びのとびらです。”

1「学び」が見える

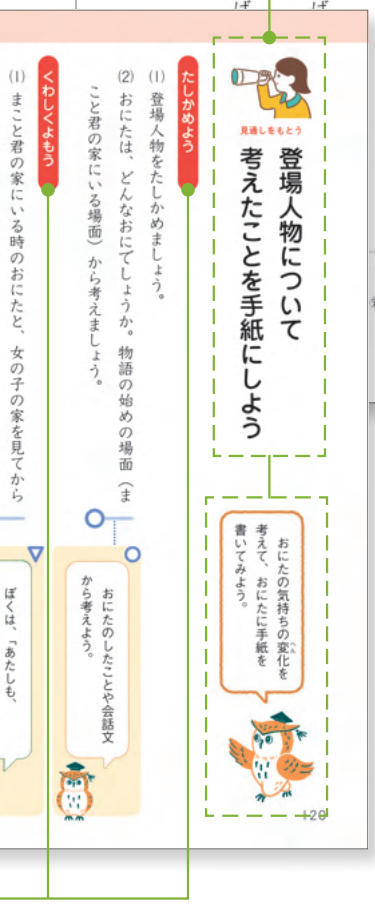
何を学ぶのか、どう学んだらよいのかがわかる、機能的な紙面

「読むこと」教材の主要な単元には、単元扉を設けています。単元扉で学習の見通しをもち、「学習のてびき」の「ふり返ろう」で学習を振り返る――学びが一本の線でつながっていることで、どんな学習をして、どんな力がつくのか、子どもが自覚しながら学習に取り組むことができます。

本文　　単元扉

おにたのぼうし

節分の夜のことです。
まこと君が、元気に豆まきを始めました。
ぱら　ぱら　ぱら　ぱら
まこと君は、いりたての豆を、力いっぱい投げ
「福はあ内。おにはあ外。」
茶の間も、客間も、子ども部屋も、台所も、ば
ていねいにまきました。そこで、まこと君は、
「そうだ、物置小屋にも、まかなくっちゃ。」


見通しをもとう
登場人物について
考えたことを手紙にしよう
たしかめよう
(1) 登場人物をたしかめましょう。
(2) おにたは、どんなおにでしょうか。物語の始めの場面（まこと君の家にいる場面）から考えましょう。
おにたのしたことや会話文から考えよう。
くわしくよもう
(1) まこと君の家にいる時のおにたと、女の子の家を見てから
ぼくは、「あたしも、
おにたの気持ちの変化を考えて、おにたに手紙を書いてみよう。
107

七
いわさき　ちひろ　絵
読む
おにたのぼうし
登場人物について考えたことを手紙にしよう
「人間っておかしいな。おには悪いって、決めているんだから。」
107

三下p107『おにたのぼうし』

単元扉

単元扉に、「学習のめあて」と、子どもの「読みたい！」という気持ちを喚起するためのいざないの言葉、本文中のイラストを示しました。
学習に向かう意欲を高めながら、学習の見通しをもって本文の文章を読んでいくことができます。

学習のめあて
イラスト
いざないの言葉

単元扉に示された「学習のめあて」から、「本文」、「学習のてびき」に示された「学習のめあて」と「ふり返ろう」、「ここが大事」までが、重点指導事項に焦点化された一つのまとまった学びとしてつながっています。

単元扉を見れば、何を学ぶのかがわかるね。

学習のてびき

見通しをもとう

単元扉で示した「学習のめあて」を、「学習のてびき」にも掲載しています。「ふり返ろう」と照応させることで、学習の大きな流れがつかめます。
また、めあての下には、どのような言語活動を通じて学ぶのかを明示しています。

ここが大事

「ここが大事」で、他の教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントをまとめています。

ふり返ろう

「ふり返ろう」で、この教材で学んだことがどのようなことだったのか、指導事項と言語活動の二つの観点で振り返ります。

三下p123『おにたのぼうし』学習のてびき

三下p120-121
『おにたのぼうし』学習のてびき

4ステップ構造の学習内容

下段をヒントにしながら、
学習を進めていこう。

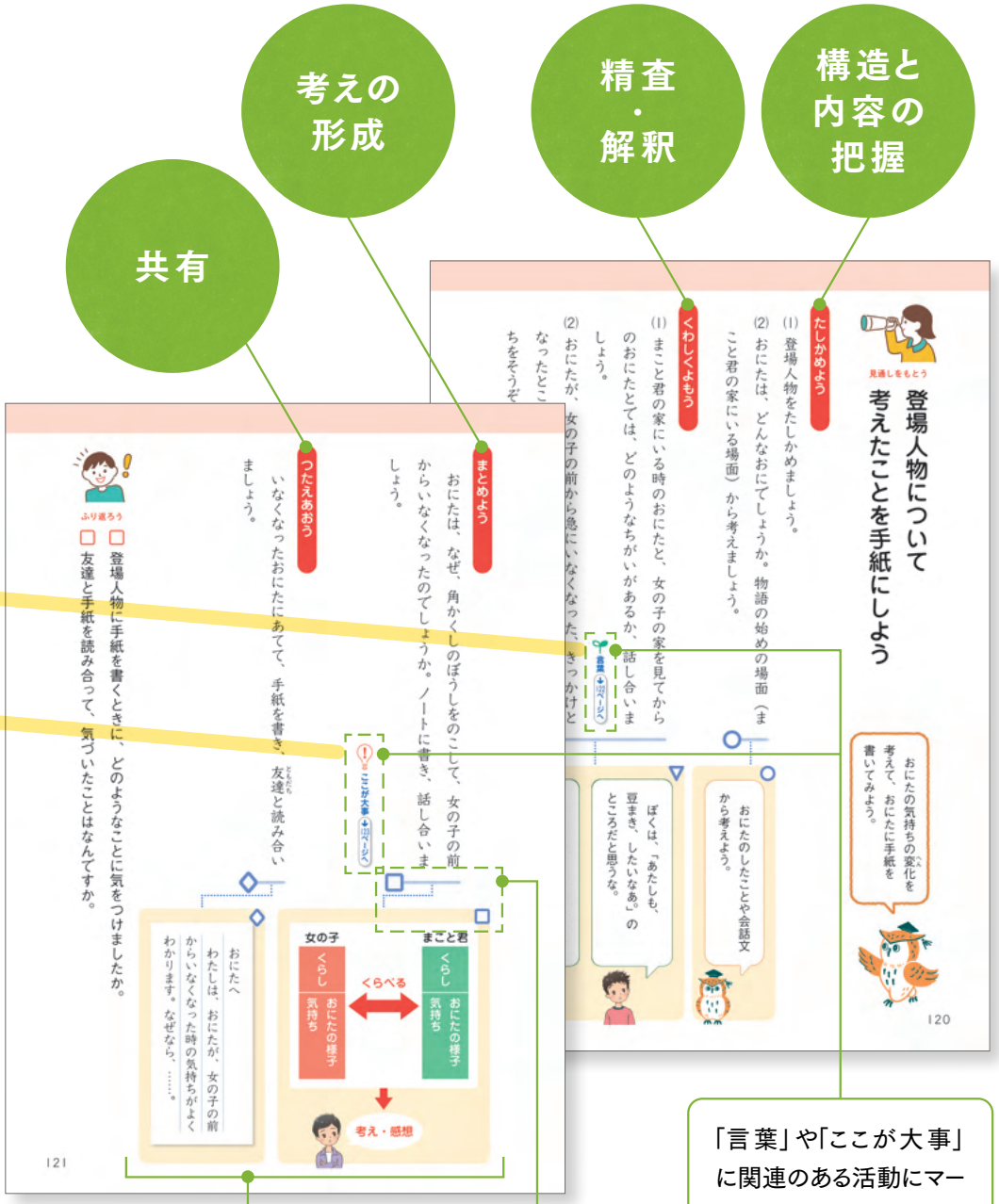
「ふり返ろう」や
「ここが大事」も
活用しよう。

使いやすくなった
「学習のてびき」
詳しくは6ページ

1「学び」が見える

学び方が見える、子どもたちが見通しをもてる「学習のてびき」

「学習のてびき」の学習活動には、学習指導要領で示された学習過程に対応した4ステップの学習内容が示されています。下段には、学習を支える子どもの反応例や教科書に登場するキャラクターの言葉が示され、子どもの主体的・対話的で深い学びにつながるように構成しています。



三下p120-121
『おにたのぼうし』
学習のてびき

「言葉」や「ここが大事」に関連のある活動にマークをつけ、どこで関連づけて扱えばよいかがわかるようにしています。

上段の学習活動を支える、思考ツールや図解、子どもの反応例などを掲載しています。子どもの主体的・対話的な学びを支援します。

上段と下段の対応を記号で示し、よりわかりやすくしています。

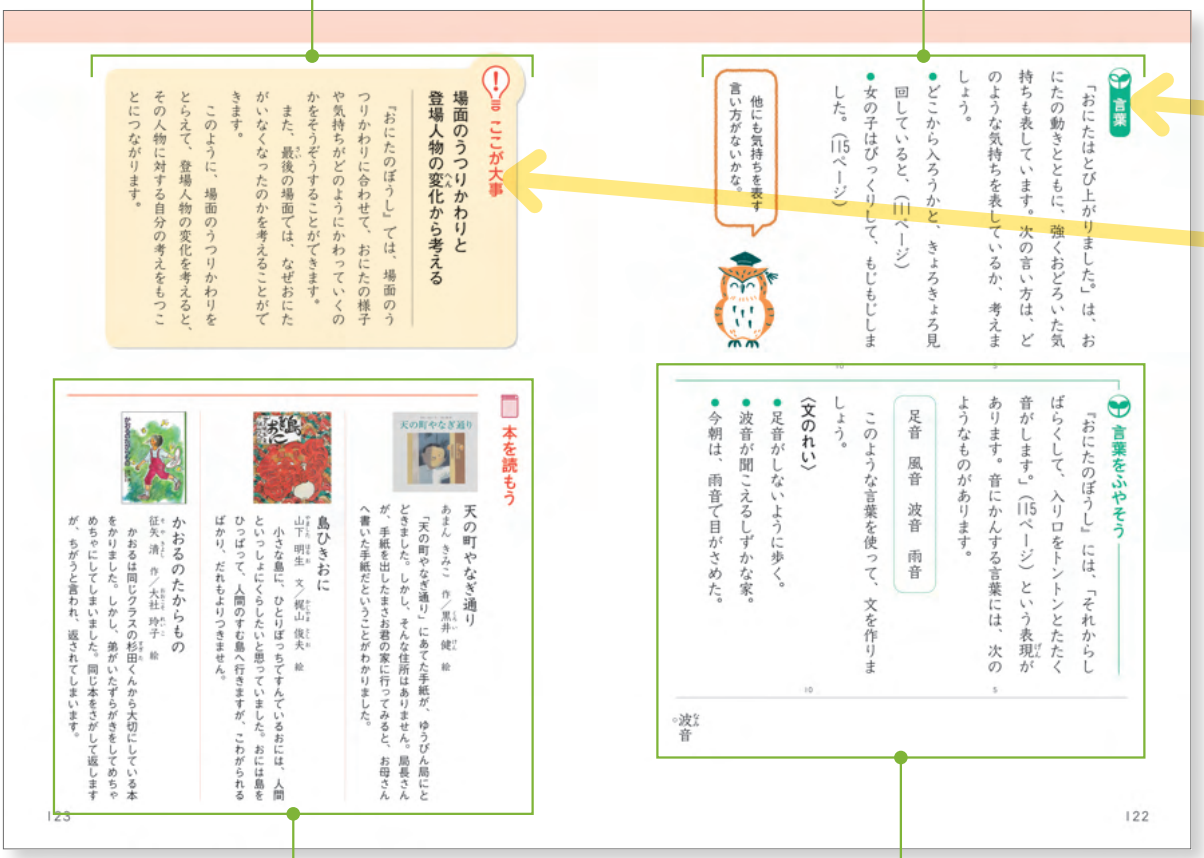
授業がどう進んでいくのかわかりやすいな。

ここが大事

「ここが大事」は、教材の重点指導事項に対応しています。汎用性のある学習のポイントとして、今後の学習でも役立てることができます。

言葉

文法的な知識や考え方を使って、読みを深めるコーナーを設けています。
「学習のてびき」の発問とあわせて「言葉」の活動に取り組むことで、本文の表現に着目し、さらに読みを深めることができます。



三下p122-123
『おにたのぼうし』学習のてびき

本を読もう

「本を読もう」では、子どもの興味をひきつける表紙とあらすじを、全ての紹介図書に掲載しています。
「学習のてびき」紹介冊数を、現行の教科書の2冊から3冊に増やし、教科書12冊を通じての紹介図書の冊数充実を図りました。
481冊▶約540冊

言葉を増やそう

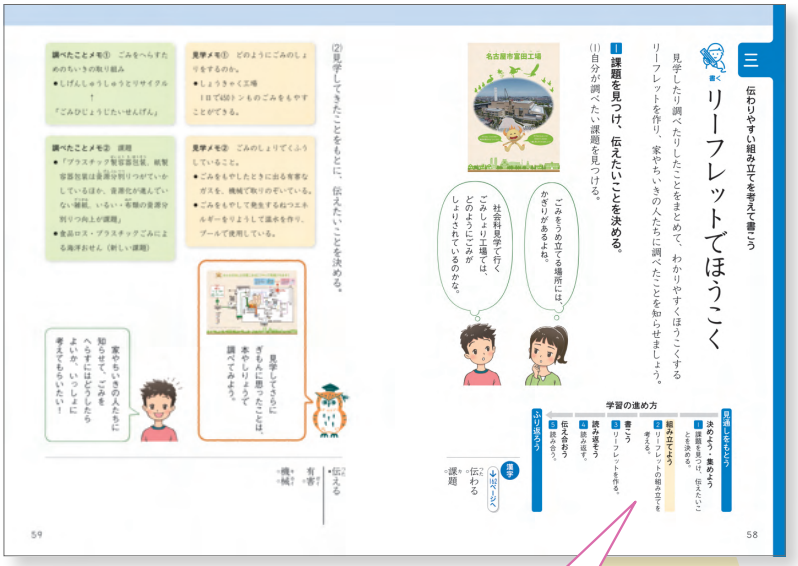
教材内で扱われた言葉と関連のある言葉を提示しています。
語句集めと文作りの活動を通して、子どもの「語彙」の自然な増加と実生活での定着を図ります。

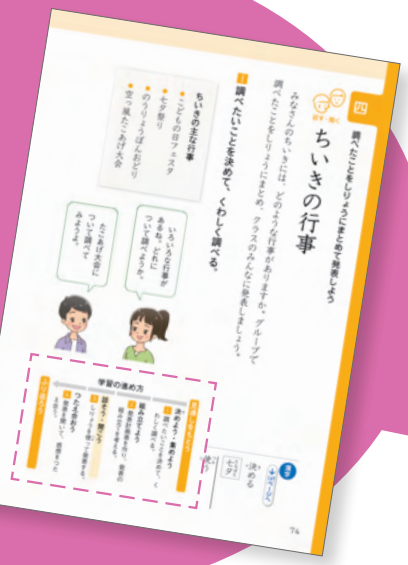
2「学び」がわかる

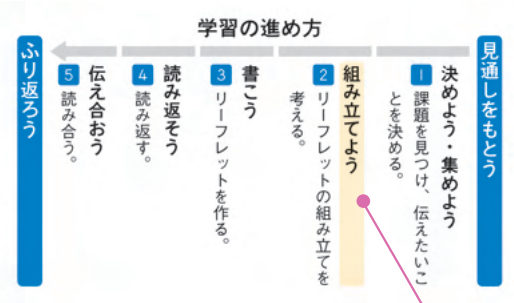
子どもたちの身のまわりにある課題に、仲間とともに向き合う教材

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、多様で活発な言語活動を設定しました。子どもにとって必要感のある課題に主体的に取り組むことで、他者と協働・協調して、変化の激しい時代を生き抜くための言葉の力を育みます。

四上p58-59『リーフレットでほうこく』







単元教材には、学習指導要領に基づいた学習ステップを設定しています。子どもは、学習のどの段階にいるのかがわかるため、見通しをもって課題に取り組むことができます。

重点指導事項はハイライト表示

四上p60-61
『リーフレットでほうこく』

言語活動の例

日常生活に即した多様な言語活動を扱っています。

話すこと・聞くこと

- 話し合い
- 発表・報告
- 説明
- ミニディベート（討論）
- パネルディスカッション

など

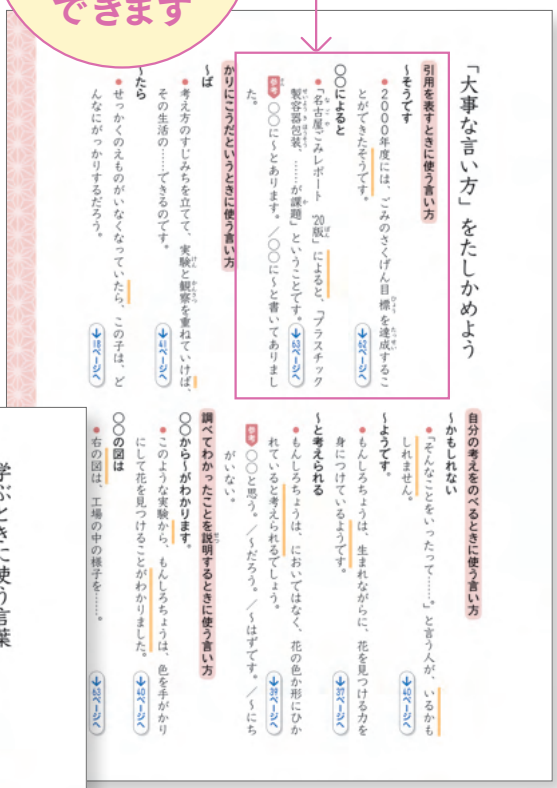
書くこと

- 日記
- 手紙
- 報告文
- 説明文
- 観察記録文
- リーフレット
- パンフレット
- ポスター
- 意見文

など

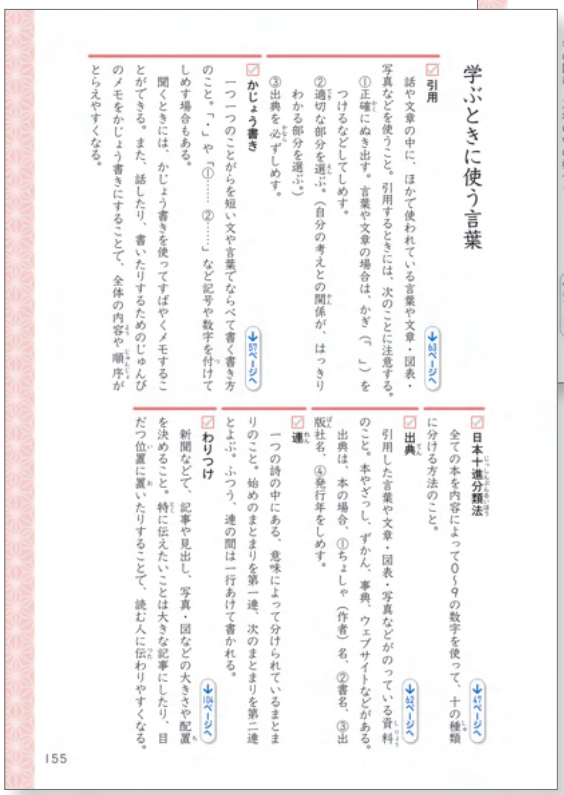
四上 p62-63『リーフレットでほうこく』

本文と巻末付録を行き来できます



四上 p157
『「大事な言い方」をたしかめよう』

「話すこと・聞くこと」の教材も同様に学習ステップを示しています。



四上 p155『学ぶときに使う言葉』

巻末付録の活用

「文型・話型」や「学習用語」などの汎用的な知識は、巻末に一覧で示し、他の学習場面でも生かせるようにしています。体系的なまとめと、実際の使用場面とを行き来しながら、そのはたらきや効果を確かめることができます。

2「学び」がわかる

言葉への関心を高めながら、生きてはたらく言葉の力を育む教材

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を支える、「知識及び技能」の指導事項を取り立て教材化しています。子どもは言葉のもつさまざまな機能に気づき、自分の考えを表現したり、他者とのつながりをつくったりしながら言葉の力を高めていきます。

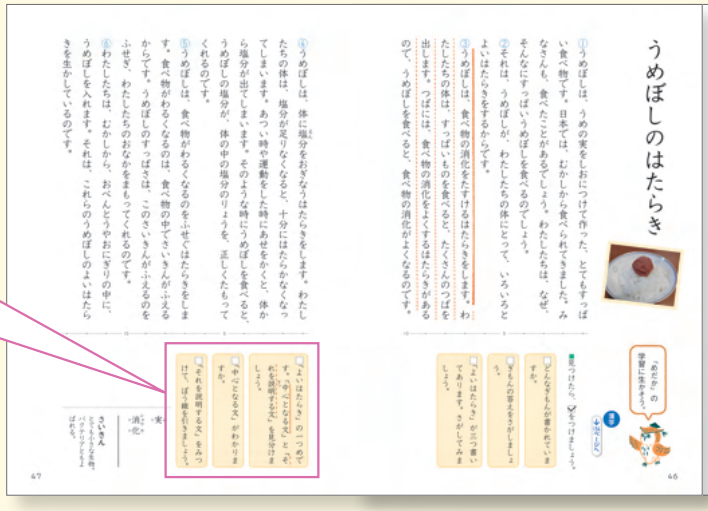
四上p124『修飾語』

四上p30『漢字の部首』

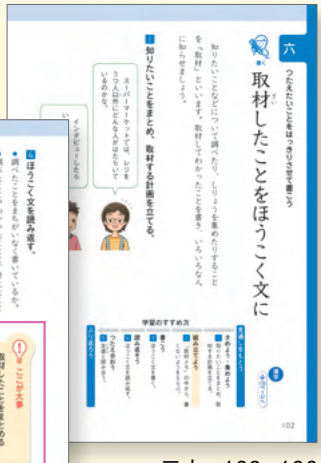
言葉・漢字

言葉について考える教材を各学年に設定しています。日常の言語生活から題材を取り上げることで、子どもが活動を通して、言語的な知識を深められるようにしています。こうした学習によって言語についての興味・関心を高め、再び子ども自らの言語生活に還元できるよう配慮しています。

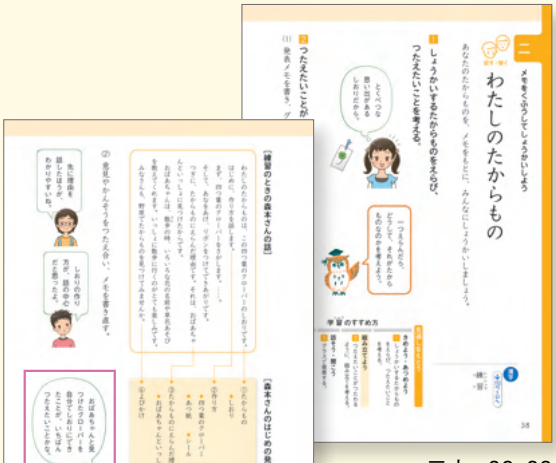
三上p46-47『うめぼしのはたらき』



三上p48『めだか』



三上p102・106
『取材したことをほうこく文に』



三上p38-39
『わたしのたからもの』

六上p24『春はあけぼの』

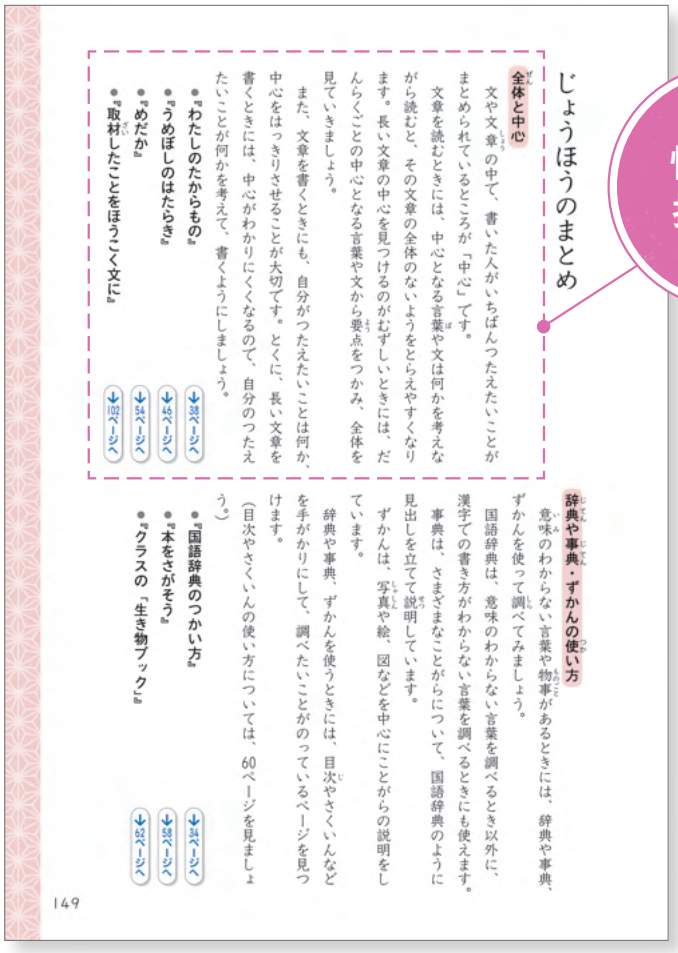
四下p70『故事成語』

二下p32『「あいうえお」であそぼう』

伝統的な言語文化

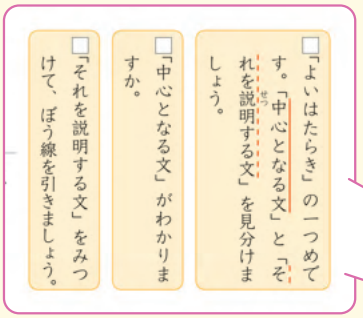
低学年では、言葉遊びなどで伝統的な言語文化に親しみ、中学年では、ことわざや慣用句など日常生活の中に生きる伝統的な言語文化の存在を感じることができます。そして、高学年では、物語や漢文を楽しみながら「古典」の世界にふれることができます。豊富な写真やイラストにより、親しみやすい紙面で言語文化を味わうことができます。

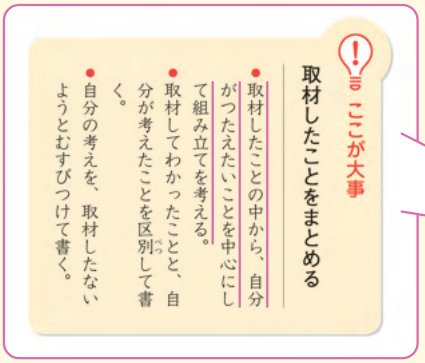
三上p149『じょうほうのまとめ』



情報の扱い方

子どもが、必要な情報を取り出したり、情報と情報との関係を整理したりできるよう、体系的なまとめのページを新設しました。
教科書内の使用場面と行き来、複数の教材で何度も反復して学習したりすることにより、実の場で活用できる力が身につくようにしています。





3「学び」が生きる

「学んだことが生かせた！」と言葉の力の広がり、深まりを実感できる

巻頭の『〇年生で学ぶこと』で、どのようなことを学ぶのか、どのような国語の力が身につくのか、一年間の学習の見通しをもてるようにしています。また、巻末で学習したことを振り返る機会を設け、その後の学習への意欲を高められるようにしています。

学びの主役は子どもです

子どもは、教科書を通じてさまざまな言葉と出会い、
確かな言葉を使えるようになるための
「言葉の旅」をしていきます。
この教科書では、子どもたちが日常生活を営むうえで
必要な言葉の力を育むよう、
知識・技能や各領域の学習をバランスよく設定しています。
これらの学習を通して、
子どもたちは言葉の学びを実感し、
他教科の学習など実生活に生きる言葉の力を身につけていきます。

学習したことが、実生活のどのような場面で役立つのかを示しています。

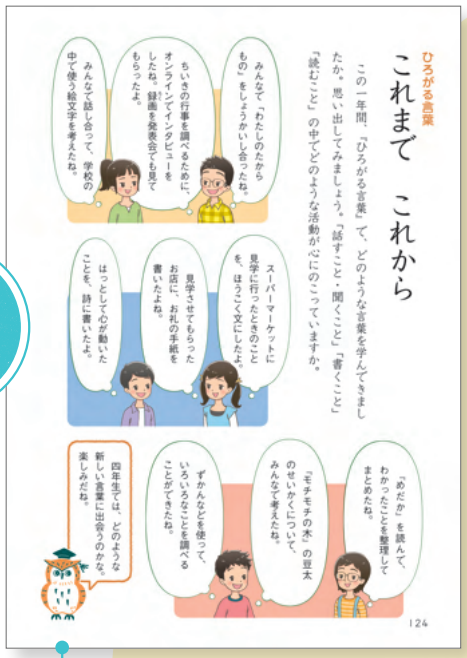
各巻の冒頭にある『〇年生で学ぶこと』で、どのようなことを学習するのか見通せます。

巻頭

三上p4-6『三年生で学ぶこと』

巻末

下巻



三下p124『これまで これから』

上巻

三上p138『つながる ひろがる』

巻末には、どのようなことを学んだのか、また、学んだことをどのように生かすことができるのか、アウトプットする活動を設定しています。学んだことや身につけた言葉の力に気づき、実生活に生かしていこうという意欲を高めます。

領域のテーマカラー

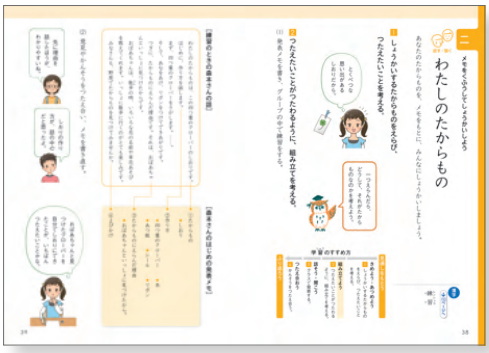
「話す・聞く」は黄色、「書く」は青色、「読む」は赤色、「言語・漢字」は緑色、「文化」は黄土色、「読書」は紫色で示しています。

子どもたちは、「何を学ぶのか」を視覚的にも捉えることができます。

国語の学びを日常生活へ

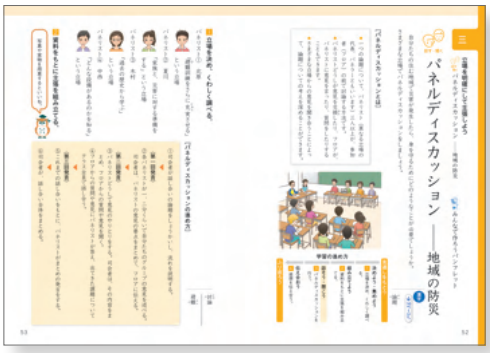
日常生活や学校生活に関連した題材を設定し、
子どもの実生活に結びついた活動になるようにしています。
また、目的意識や必然性・必要感を重視した教材を設定し、
子どもの学習意欲が持続するようにしています。

三上p38-39『わたしのたからもの』



自分の宝物を発表するなかで、筋道を立てて話をすることを学習します。他教科等の学習での発表などに生かすことができます。

六上p52-53
『パネルディスカッション――地域の防災』



立場や意図を明確にした、計画的な話し合い方を身につけます。他教科の学習や総合的な学習の時間等で、考えを深めたいときに活用できます。

六上p58-59『みんなで作ろうパンフレット』

読む人のことを考えながら、友達と協力して1冊のパンフレットを作ります。

一下p60-61『こころが あたたかくなる 手がみ』

相手のことを考えて、自分の気持ちを書き表すことを学びます。日常生活で大切な、思いやりをもって表現することを学びます。

巻末付録

「楽しく読もう」「言葉の道具箱」「漢字を学ぼう」といった、語彙の拡充や話型・文型のまとめなどの、国語の学習を支えるさまざまなツールや読みものが収められています。

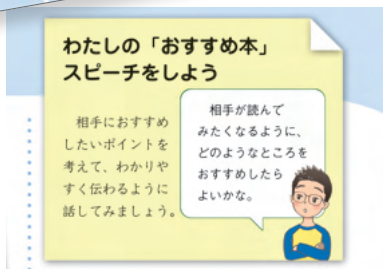
3「学び」が生きる
言葉の学びを実感し、生きた言葉の力で世界を広げる

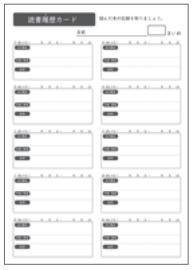
国語という教科にとどまらない、「生きてはたらく言葉の力」を身につけられるようにしています。子どもたちは、言葉の学びを実感しながら、他教科の学習など実生活に生きる言葉の力を身につけ、自ら世界を広げていこうとする意欲を高めます。

紹介冊数
約540冊

読書生活を豊かに

「ひろがる読書の世界」という図書紹介のコーナーを、夏休み前の学習時期に新設しました。「夏休みに読んでみたい！」という気持ちを喚起できるよう、子どもに人気のある作品なども取り上げ、ジャンルを問わず、各学年5冊ずつ紹介しています。





短時間で行える読書活動を紹介し、夏休み前や夏休み明けに授業で扱えるようにしています。
また、各教材の二次元コードから「読書履歴カード」にアクセスすることができ、読んだ本を書きためる活動を促しています。継続的に読書を楽しむきっかけの一つとなることを期待しています。

二上p58-59『本で しらべよう』

情報読書

交流読書

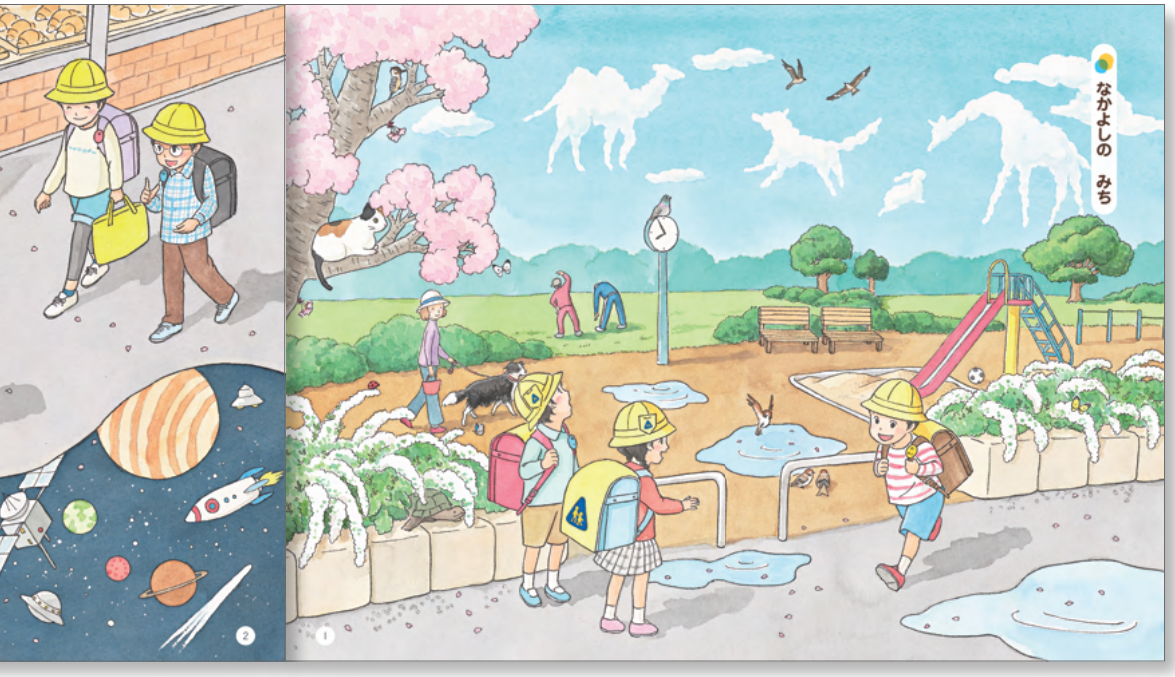
二下p56-57『「お話びじゅつかん」を作ろう』

上巻には、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図る「情報読書」教材を、下巻には、図書の紹介を中心とした交流活動を行う「交流読書」教材を設定しています。どの学年も、年間を通して本にふれる機会が保証され、読書の日常化を促すようなつくりになっています。

楽しく、安心して学べる入門期教材

入学して初めて開く国語の教科書。そのどきどきやわくわくを学びにつなげられるよう、入門期は楽しく親しみやすい紙面になるように心がけました。見開きごとに見やすく構成された教材により、子どもが無理なく、安心して言葉の学びに慣れていけるよう工夫しています。

一上表紙裏-p5『なかよしの みち』



国語の学習で子どもが最初に出会う教材では、子どもの「気づき」を大切に、親しみやすく、想像力を刺激するイラストにしました。子どもたちの言葉をどんどん引き出し、主体的・対話的に、そして楽しく言葉の学びを始められます。

一上p14-15『かいて みよう』

一上p6-7『あかるい あいさつ』

一上p12-13『こえの おおきさ どれくらい』

スタートカリキュラムを意識した教材により、書写や生活科などの、他教科と連携した合科的な指導が可能です。

新しい文字との出会い

一上p28-29『くまさんと ありさんの ごあいさつ』

清音から、濁音、半濁音、撥音（ん）、促音（っ）、拗音（ゃ、ゅ、ょ）へと、丁寧な文字学習の段階をふんでいます。新しい文字は、読んだり声に出したりして親しんだあと、取り立てた教材でどう書くかを学びます。子どもの発達段階に合わせて、スモールステップで学んでいくことで、着実な文字習得を図ります。

一上p24-25『かきと かぎ』

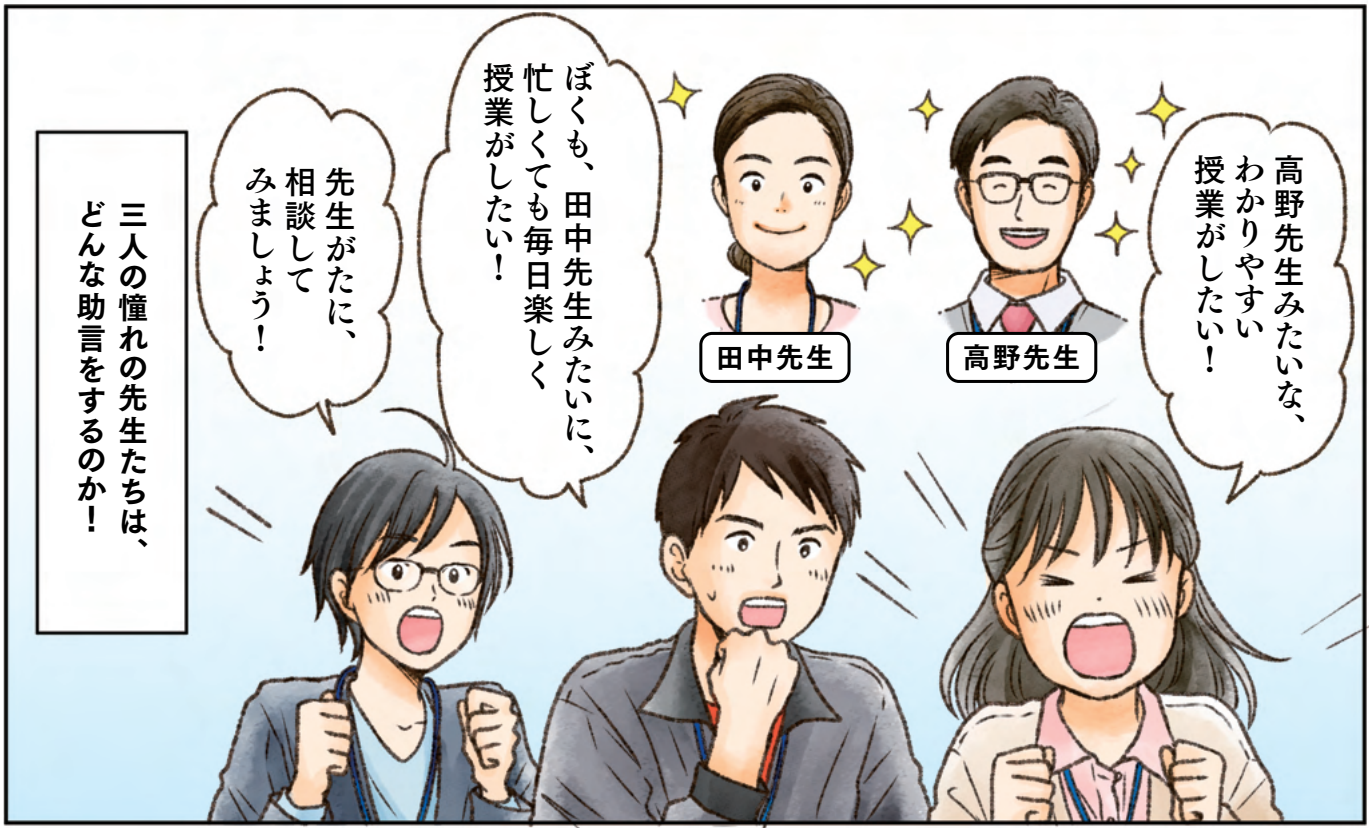
書いて身につく

一上p32-33『ねこと ねっこ』

国語授業づくり

教科書を最大限に活用する方法を楽しく紹介

『ひろがる言葉』を使った



この続きは、

「『ひろがる言葉』を使った国語授業づくり」

をご覧ください。

資料1

授業を完全サポート
――デジタル教科書・教材

さらに使いやすく便利になったデジタル教科書・教材は、国語の楽しさをひらくコンテンツやツールが充実しています。学びを支えるデジタル教科書・教材で、子どもの理解も深まります。

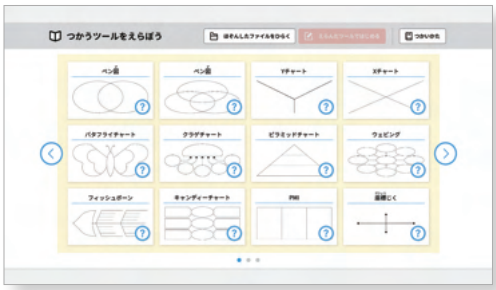
本文拡大

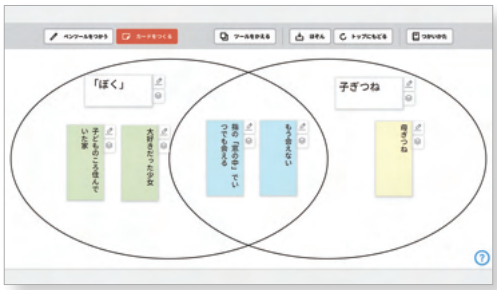
教科書紙面を読みやすいように大きく表示しています。
朗読音声の再生や、ペンやマーカーでの書き込みができるので、スムーズに授業を進めることができます。

教科書紙面

思考ツール

意見や考えを整理したり、広げたりすることができます。
さまざまな種類のツールを用意しているので、学習場面に応じて使いたいツールを選ぶことができます。





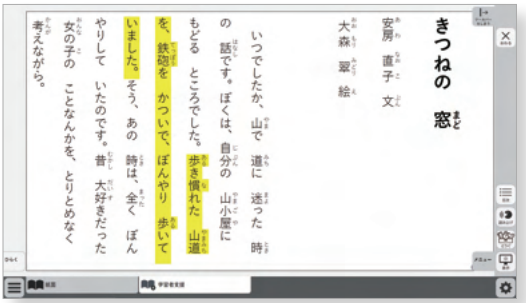
その他コンテンツ

・朗読音声　・筆順アニメーション　・ワークシート　・活動実写動画
・資料動画　・写真資料　・漢字フラッシュカード／テスト　など

学習者支援機能

学習者支援機能は、児童一人一人の学びを支援する機能です。

自動音声読み上げ、総ルビ（ふりがな）、分かち書き、
リフロー（文字サイズ変更、書体変更、行間変更、色変更、たて書き／よこ書き変更）



指導者用デジタル教科書（教材）

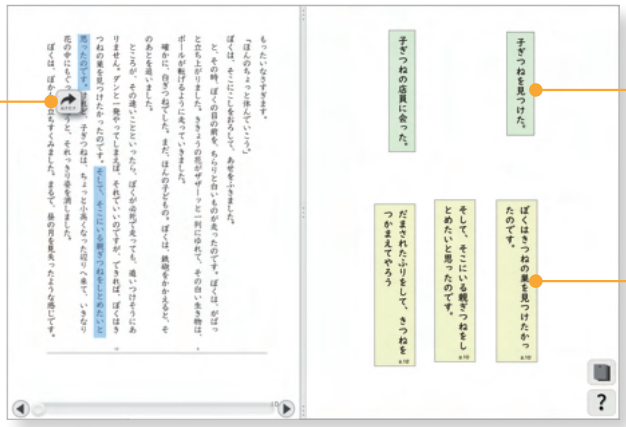
紹介ページはこちら >

学習者用デジタル教科書＋デジタル教材

デジタルメモ

「読むこと」教材の本文や挿絵を選択し、右側のワークスペースに抜き出すことができます。
本文に即して内容を整理したり、自分の考えをまとめたりするときに、効果的な機能です。

「ぬきだす」ボタンで、選択部分を抜き出すことができます。

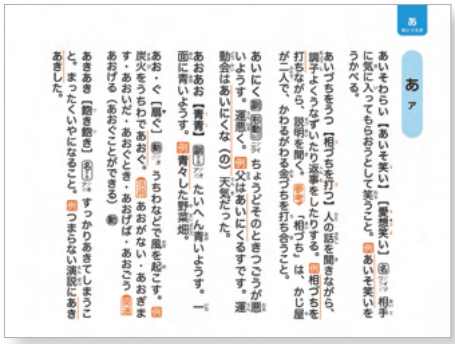


自分の考えなどを記入して、短冊を作成することができます。

本文や挿絵を抜き出すことができます。

辞書

小学館『例解学習国語辞典』の協力を得て、教科書に登場する語句を掲載しています。
紙の辞書を引くように語句を探すことができるので、さまざまな言葉と出合うことができます。



学習者用デジタル教科書

教科書を拡大したり、自由にペンやマーカーで書き込んだりすることができます。
「まなびリンク」にも簡単にアクセスすることができます。

※「学習者用デジタル教科書」の機能は、
「学習者用デジタル教科書＋デジタル教材」にも収められています。

※掲載画面は開発中のものとなります。予告なく変更することがあります。

子どもの学びを広げる——「まなびリンク」

必要なことは全て教科書の中に収載されていますが、教科書の外に飛び出して、新しい情報を得られる環境も大切です。教育出版の「まなびリンク」は、ウェブサイトと連動して、充実した情報が取り出せます。子どもの「もっと学びたい」という思いにきっと応えられるでしょう。

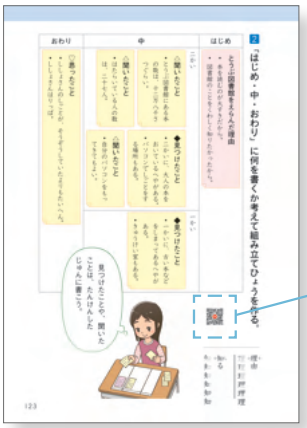
まなびリンク

教科書に掲載された二次元コードを、スマートフォンやタブレット端末等で読み取ることで、インターネット上のコンテンツにアクセスすることができます。
コンテンツの種類は、「写真」「動画」「資料」「ワークシート」「リンク」があり、それぞれマークを二次元コードの中央に示しています。

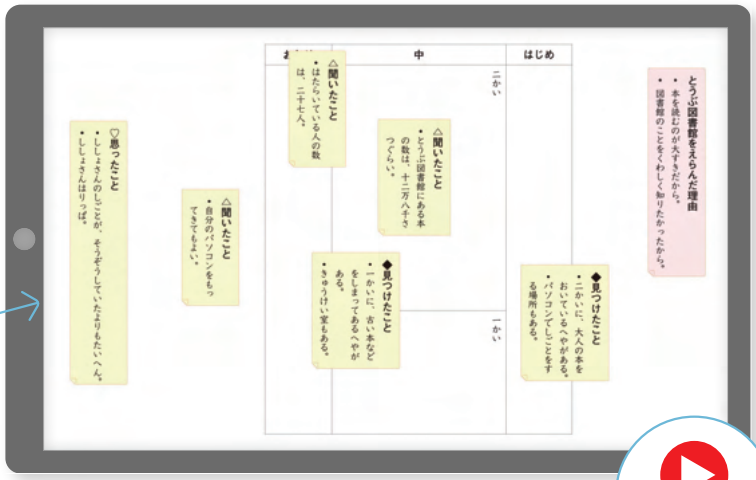
まなびリンク　写真　動画　資料　ワークシート　リンク

六下ｐ109
『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』

資料

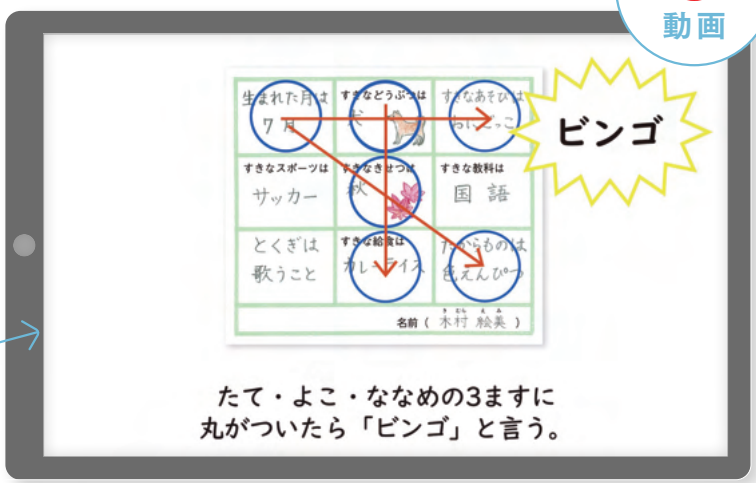


二上ｐ123
『町の「すてき」をつたえます』



動画

三上ｐ8
『じこしょうかいビンゴゲーム』



先生がたの日々の授業を支える
―教師用指導書

国語を専門としない先生や新任の先生にも、安心してお使いいただける指導書です。丁寧な解説とわかりやすい紙面構成で、先生がたの日々の授業や研究を支援します。また、知りたい情報の検索性が高く、書き込みや共有が自在にできる、デジタル化した指導書の提供も始めます。

教師用指導書

●総説編
年間の活動を計画する際に役立つ各種の参考資料（年間学習指導計画・評価計画について、単元・教材の構成・配列、指導事項や学習指導の系統、言語活動や学習用語などの一覧、特別支援に関する解説など）を掲載しています。

●解説編
各教材の詳細な内容解説を掲載しています。日々の授業の準備はもちろんのこと、研究授業の準備等にもご活用いただけます。

●展開編
毎時の授業における活動の留意点や、具体的な発問例・板書例など、先生がたの日々の授業を支援する豊富な情報をご確認いただけます。

●朱書編／デジタル朱書編
教科書と同じ紙面に、教材研究に関する内容を赤字で、授業展開に関する情報を青字で、二色に分けて掲載しています。実践の場で参考となるように、授業に必要な情報が端的に捉えやすい紙面の工夫をしています。

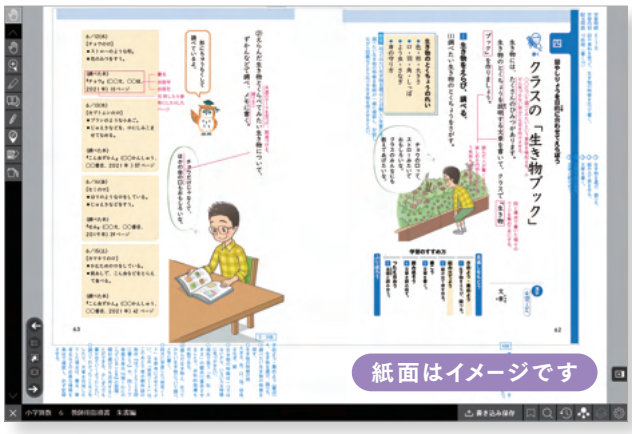
●ワークシート
展開編の授業展開にあわせたワークシートを、データにて提供いたします。子どもの記入例入りのものもあわせてご活用ください。

※各企画の内容は、変更になることがあります。
※その他、「拡大教科書」の発行を予定しています。

新企画!!

デジタル朱書編

令和6年度版から教師用指導書セットにデジタル朱書編（データ配信版）を同梱して提供します。



デジタル朱書編

デジタル朱書編の特徴

① 先生どなたでも使用できる
② アカウントごとに書き込み・保存ができる
③ 文字検索ができる
④ 複数の端末でアクセスできる
⑤ 自作の資料を保存できる

「私の大切な教科書」となることを願って
――表紙・分冊

子どもたちが教科書と出会った時、自然と笑顔になるような、子どもの感覚に寄り添った楽しい世界を表紙にしました。色鮮やかで魅力的なイラストが、子どもたちを国語の学習へといざないます。

低学年

子どもと動植物とのふれ合いを描いています。
さまざまな命がともに生きる自然の世界で、
子どもたちは多様な生命と協調しながら楽しんでいます。

表紙絵　仁子（じんこ）　https://jinko.jimdofree.com/

表紙の世界――「本」の世界で遊ぶ

表紙のイラストには、なにか共通点があることに気がつきましたか？　実はどの表紙にも、本を読む子どもたちが描かれているのです。

今度は裏表紙を見てください。表紙と同じ子どもたちが、日常的な場面で本をもとに交流しています。裏表紙の子どもたちが読んでいる本から、想像された世界が、表紙には描かれているのです。

いったいどんな本を読んでいるのか、教室の子どもたちと想像してみてはいかがでしょう。

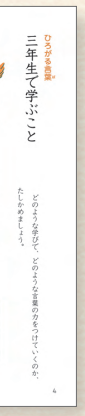
二下裏表紙イラスト

全学年上下巻の二分冊

新しい教科書と出会った時、子どもたちの心は期待と喜びであふれます。子どもたちのそんな気持ちを大切にして、全学年で分冊を採用しています。また、分冊にすることで、教科書を軽量化し、付録ページの充実を図りました。

三上p2-3『目次』

上巻目次にも下巻目次を掲載



三上p4-5『三年生で学ぶこと』

中学年

子どもたちが、未知の世界へと探求していく姿を描いています。
身のまわりの世界から、さらに先の世界へと、
子どもたちの好奇心があふれています。

表紙絵　alma（あるま）　https://almatto04.tumblr.com/

高学年

子どもたちと、異界や宇宙といったより広い世界とのつながりを描いています。
距離や時間を超えた、離れた世界の事物へと、
子どもたちの想像力が広がっていきます。

表紙絵　丹地陽子（たんじようこ）　instagram.com/yokotanji/

分冊にはこんなよさがある！

＊新しい教科書に出会う喜びが
　一年に二回

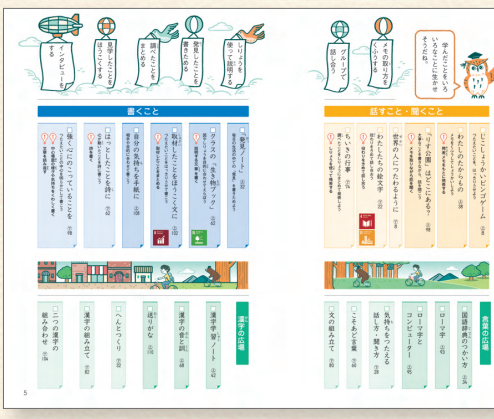
＊教科書が軽いと、
　自宅に持ち帰るときの負担も軽い

＊付録が充実していて、
　「読むこと」教材がより多彩に

＊ゆったりとした読みやすい紙面

三上p6『三年生で学ぶこと』

目次や『○年生で学ぶこと』を
見ると、一年間を通した学習の
見通しをもつことができます。



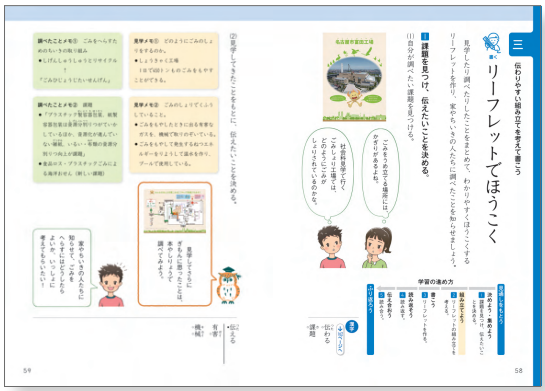
「学びたい」をしっかり支える
――だれにとってもやさしい教科書を目ざして

さまざまな人がともに生きる社会の実現を目ざして、子ども一人一人の「学びたい」気持ちに応える教科書を作りました。多様性を尊重しながら共存できる社会の実現を願い、教科書にさまざまな配慮を施しています。

カリキュラム・マネジメントへの対応

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材を中心に、他教科の学習に合わせて柔軟な扱いが可能になるよう配慮し、他教科の学習を支えることができるようにしています。他教科の学習という実際の言語活動に活用されることは、実生活で生きてはたらく言葉の力を育むことにつながります。

［四上p58『リーフレットでほうこく』など］



四上p58-59『リーフレットでほうこく』

SDGs・ESDへの取り組み

六上p35
『アイスは暑いほどおいしい？／雪は新しいエネルギー』

現代社会の問題を自らの課題として考えられる子どもを育むことができるよう、専門家による校閲を受け、SDGs・ESDに取り組めるように工夫しました。

［四上p102『作ろう学級新聞』、四下p92『手話であいさつをしよう』、五下p8『世界遺産　白神山地からの提言――意見文を書こう』、六上p35『アイスは暑いほどおいしい？／雪は新しいエネルギー』など］

タブレット端末等の活用

発達段階に応じて、タブレット端末等を効果的に活用できる学習活動を設定しています。

［三上p102『取材したことをほうこく文に』、四下p62『クラスの「不思議ずかん」を作ろう』など］

人権上の配慮

社会の多様性を踏まえ、人権を尊重し、あらゆる差別をなくすため、イラストや図版も含め教科書内の表現に配慮しています。

小中の接続

第5・6学年では、中学校の国語学習との接続も意識し、焦点を絞った見方で全体を捉えて（重点化・焦点化）課題を解決できる力を身につけられるような、単元や教材の構成を取り入れています。

教科書体・硬筆体

活字は、文字としての美しさを考慮しながら、読みやすく、力強い教科書体を用いました。また、巻末の漢字一覧で掲出している硬筆体は、書写教科書の筆者の字を使用し、学習上の関連を図っています。

交ぜ書きの回避

違和感のある交ぜ書きをできるだけ避けるように配慮しています。上位学年の漢字であっても、過度な負担とならないよう配慮しながら、適宜振り仮名を使用して熟語で示しています。

オリジナルフォントの使用

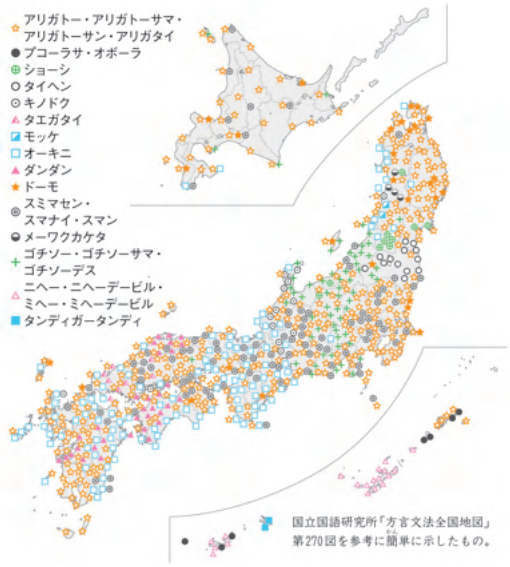
紙面でもデジタルの画面上でも、見やすく、読みやすいユニバーサルデザインに配慮したオリジナルフォントを使用しています。

特別支援教育への配慮

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学びのステップを常に確認できるように、「学習の進め方」の欄を設けました。子どもが学習の見通しをもち、本時で何を学習するのかがわかるように配慮しています。

カラーユニバーサルデザイン

色調のバランスだけでなく形のうえでも区別しやすいように配慮したり、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避けたりしています。色覚の特性を踏まえた、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。



五上p126『方言と共通語』

表紙・用紙・印刷

表紙は堅牢で環境に配慮した特殊コーティングを採用、紙は軽量ながら裏移りしない再生紙を使用、印刷は植物を原料とした植物油インキを用いています。

製本

製本は、長期間の使用に耐える堅牢な方式を採用しています。

個別最適な学びの実現に向けて

子ども一人一人の実態に応じた学びが可能になるように、さまざまな工夫を施しています。

「読むこと」教材の「学習のてびき」では、学習活動を支える、思考ツールや図解、子どもの反応例などを下段に掲載しています。

「話すこと・聞くこと」教材、「書くこと」教材では、文型・話型や学習用語などの汎用的な知識を「大事な言い方」や引き出し線で取り立てて示しました。さらには巻末に一覧を示すことで、実際の使用場面と体系的なまとめとを行き来しながら、そのはたらきや効果を確かめることができます。

このような仕組みにより、学んだことを他の学習場面でも生かせるようにしています。

著作者の言葉

言葉を学び、使うことの楽しさに出会う
――実生活に生きてはたらく『ひろがる言葉』――

筑波大学附属小学校教諭
青木伸生（あおき　のぶお）

国語科において身につけ伸ばす力とは、子どもが、言葉を道具として使いこなす力です。言い方を変えれば、子どもに、状況に応じた「話し方・聞き方、書き方、読み方」を身につけさせることです。そして言葉を使う場は、実生活の場ということになります。実際の生活場面において、生きてはたらく言葉の力を育てることが重要です。しかも、言葉を駆使する場は千差万別であって、いつも同じ技能がそのまま通用するということはほとんどありません。常に、その場に応じた技能の発揮が求められます。自分が言葉を発する相手やその人数、伝えなければならない内容や、その方法など、その場で判断して、自分のもっている技能を応用させることが求められるのです。そうした言語運用能力ともいえる力の基礎をいかに育てていくかが、国語科の授業づくりのポイントとなります。

国語教科書は、言葉を臨機応変に使いこなすことのできる力をつけるためのテキストです。言葉がもつ力を実感すること、言葉のおもしろさ・不思議さを実感すること、言葉を身につけることで自分自身を成長させること。この三つの視点を根底に置きながら、国語の授業を通して、場に応じた言葉の運用ができるように、言葉をみがくのです。それがすなわち、自分自身をみがき、成長させることになります。

国語教科書は、子どもが言葉をみがき、自分自身を高めることのできるものでありたい。言葉を通した人間教育に資する教科書をつくるというコンセプトに、教育出版が大切にしてきた「学習者中心の教科書づくり」を継承し、より深化、発展させた教科書をお届けいたします。

大妻女子大学教授
樺山敏郎（かばやま　としろう）

言葉を豊かに学ぶには、学び手が主体的に言葉に関わり、言葉の力を協働的に獲得していくことが大切です。主体的に学ぶためには、そこに学ぶ楽しさや喜びが必要です。言葉を学ぶことは、単に技術を学ぶことだけではありません。言葉を通して心を育て、世界を広げることができるのです。自己を築くための母語を獲得し、協働的に生きていく民主的人格が育まれるためにも言葉の学びは必要です。学校教育における言葉の学びは、国語科が担っています。国語科には、言葉の力を意図的・系統的に育成していく責務があります。子どもの発達に即した国語科での学習指導によって、人生に役に立つ言葉の力が身につくとともに、楽しくて、不思議で、奥深い言葉の世界が、少しずつ広がっていきます。

一方、言葉の世界は、国語科の中に閉じません。言葉の世界は、各教科等の学習や実生活へと多様に広がっていきます。情報化社会からスマート社会の到来は目の前です。これからの社会を生きる子どもたちは、さまざまな課題に直面します。多くの情報があふれる現代社会において、情報とどのようにつきあっていくか、社会をいかに持続可能なものとしていくか、多様な人々が自分らしく生きる権利をどのように守るのかなど、こうした課題には常に言葉の力が求められます。学び手が楽しさを感じながら言葉の力を獲得していくことで、これらの課題の解決につながることを意識し、徹底して子ども目線に立って教科書を編集しました。

“国語科で学ぶ言葉の世界が実生活に広がる”教科書でありたい。こうした願いを、「ひろがる言葉」という書名に込めました。

樺山敏郎 大妻女子大学教授
青木伸生 筑波大学附属小学校教諭
田近洵一 東京学芸大学名誉教授
北原保雄 元筑波大学学長
今村久二 元東京都品川区立品川小学校校長
植山俊宏 京都教育大学教授
木下ひさし 聖心女子大学教授
矢澤真人 筑波大学教授
青木紀子 千葉県千葉市立千城台東小学校校長
渥美伸彦 北海道教育大学准教授
石田喜美 横浜国立大学准教授
泉　正人 埼玉県さいたま市立中尾小学校教諭
井上典子 元東京都江戸川区立平井西小学校校長
井上陽童 東京都小平市立小平第十小学校主任教諭
井上善弘 国士舘大学教授
岩崎　淳 学習院大学教授
梅澤　梓 東京都中央区立日本橋小学校教諭
大島静恵 東京学芸大学附属世田谷小学校教諭
岡崎智子 東京都練馬区立向山小学校主任教諭
奥村千絵 神奈川県横浜市立宮谷小学校教諭
長田友紀 筑波大学准教授
春日由香 都留文科大学教授
加藤真奈美 学習院初等科教諭
加野俊明 早稲田実業学校初等部教諭
河内昭浩 群馬大学准教授
神林哲平 早稲田実業学校初等部教諭
菊野雅之 北海道教育大学准教授
ロバート キャンベル 早稲田大学特命教授
栗原浩美 筑波大学附属小学校学校司書
幸田国広 早稲田大学教授
児玉　忠 宮城教育大学教授
小山進治 神奈川県横浜市立つつじが丘小学校副校長
齋藤　雅 早稲田実業学校初等部教諭
坂本喜代子 帝京大学准教授
佐藤麻野 東京都葛飾区立清和小学校主任教諭
佐藤宗子 千葉大学名誉教授
佐野比呂己 北海道教育大学教授
澤田英輔 軽井沢風越学園教諭
柴田紀子 東京都杉並区立高井戸第二小学校校長
島田雅子 東京都江戸川区立小岩小学校主任教諭
清水　良 東京学芸大学附属世田谷小学校教諭
白坂洋一 筑波大学附属小学校教諭
高須みどり 東京学芸大学附属竹早小学校教諭
竹内義信 愛知県名古屋市立西味鋺小学校校長
田中拓郎 弘前大学准教授
田村香代子 東京都府中市立南白糸台小学校副校長
丹藤博文 愛知教育大学教授
土屋晴裕 東京学芸大学附属大泉小学校教諭
鶴巻景子 東京学芸大学教職大学院特命教授
鳥羽大河 埼玉県本庄市立旭小学校教諭
中西　淳 愛媛大学教授
中村和弘 東京学芸大学教授
中村孝一 常葉大学大学院教授
西　研 哲学者
西川義浩 東京都文京区立駕籠町小学校主任教諭
庭田瑞穂 青森県西目屋村立西目屋小学校校長
乗木養一 元埼玉県戸田市立戸田第一小学校教諭
秦　美穂 東京都西東京市立田無小学校主任教諭
花坂　歩 大分大学准教授
浜崎秀教 東京都文京区立窪町小学校主幹教諭
樋口とみ子 京都教育大学教授
福田淳佑 文教大学付属小学校教諭
藤原隆博 東京都江戸川区立船堀第二小学校指導教諭
松崎史周 国士舘大学准教授
松波智恵 東京都豊島区立池袋本町小学校主任教諭
松山雅子 四天王寺大学教授
迎　有果 東京都中央区立佃島小学校主任教諭
村上智樹 北海道札幌市立幌西小学校校長
村中李衣 児童文学作家・ノートルダム清心女子大学教授
本橋幸康 埼玉大学准教授
森田真吾 千葉大学教授
守田庸一 三重大学教授
矢崎節夫 作家
山下美香 東京学芸大学附属大泉小学校教諭
山元隆春 広島大学教授
横山広美 東京大学教授
吉田昌広 北海道網走市立網走小学校校長

特別支援教育監修
名越斉子 埼玉大学教授

SDGsとESDに関する校閲
手島利夫 元東京都江東区立八名川小学校校長
馬奈木俊介 九州大学主幹教授

人権的配慮に関する校閲
辻村敬三 大阪成蹊大学教授

編集協力
石井英真 京都大学大学院准教授

教育出版株式会社

表紙についての詳しいご紹介は、
p.24をご覧ください！

教育出版

学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ

自ら問い、考え続け、社会を創っていく子どもたちを育てたい。
そのような思いをこめて、私たちはこの教科書をつくりました。

＊著作者の紹介は、P29に掲載しております

新しい教科書の
特設サイトは
こちらから！
教育出版ウェブサイトからもアクセスできます。

まなびリンク
授業で役立つ動画や音声、資料を活用できる無料のコンテンツはこちら！

本　　社	〒135-0063	東京都江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館	TEL：03-5579-6278（代）／FAX：03-5579-6444
北海道支社	〒060-0001	札幌市中央区北 1 条西 7 丁目 1　プレスト 1・7　2F	TEL：011-231-3445 ／FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町 6-7 函館第一ビルディング 3F	TEL：0138-51-0886 ／FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F	TEL：022-227-0391 ／FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F	TEL：052-262-0821 ／FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F	TEL：06-6261-9221 ／FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F	TEL：082-249-6033 ／FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F	TEL：089-943-7193 ／FAX：089-943-7134
九州支社	〒812-0023	福岡市博多区奈良屋町 2-1　博多蔵本太田ビル　4F	TEL：092-282-1150 ／FAX：092-282-1160
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F	TEL：098-859-1411 ／FAX：098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。

教育出版株式会社
https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/index.html